

ニュースレター

2026年8月号



【水上名誉院長】

～水上式 5 種カクテル+ナッツ+ドライフルーツで生き延びる～

多くのがんの患者さんが、甘いものはがんが悪いと思っていますが、それは間違いです。甘いものの質が大切なので、黒砂糖や蜂蜜はいいのです。栄養に関し、分子レベルの情報よりも、がんサバイバーが実際に何を食べれば、より再発転移を防ぎ長く生きるかという論文の方が、信ぴょう性が高いのです。

私は月刊誌「統合医療でがんに克つ」の「がんの統合医療」を連載し、がんの人が何を食べたらいいか論じていますので、今月はそのエッセンスを紹介します。

私は早朝起きるとすぐに大きなカップに 5 種カクテルを創って飲みます。紅茶、コーヒー、ココア、蜂蜜、黒砂糖を混ぜ合わせ



水上治のスペシャルドリンク

だけっこう美味しい飲み物です。実は最新研究で、それぞれの食品が、発がんリスクを 1～2 割減らすのみならず、がん再発転移リスクもがん死亡率も 1～2 割減らすことが世界中の多数の論文で証明されているのです。

さらに、私は 7 種のナッツ（アーモンド・カシューナッツ・クルミ・マカダミアナッツ・ピーナッツ・ヘーゼルナッツ・ピスタチオ）を一握りと、ドライフルーツ（プルーン・パイナップル・ベリー・レーズン）を一握り食べます。ナッツやフルーツ・ドライフルーツも、発がんリスクや転移・再発リスクを 1～2 割下げるのです。

ということは、これらを毎日摂ることだけで、自分のがん死亡率を 1/3 か、半分程度下げることができるのです。私はこのことを書いた本を出版し、ベストセラーを狙います。

希望者は、私が詳細に書いた記事を差し上げます。皆さん、明日から、5 種カクテル+ナッツ+ドライフルーツで生き延びてください。





【前田 陽子 院長】

～ イベルメクチンとメベンダゾールという選択肢 ～

いつも高濃度ビタミンC点滴にお通いいただき、ありがとうございます。

今月は、点滴と一緒に取り組んでいただける選択肢として、世界で注目が集まっている二つの薬をご紹介します。

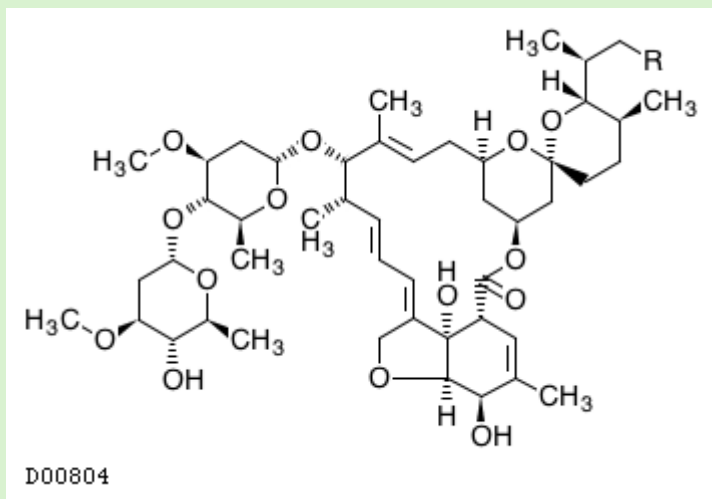
イベルメクチンは、大村智博士がノーベル賞を受賞したことで知られる駆虫薬です。近年、この薬ががん細胞そのものに働きかける可能性が次々と報告されています。細胞や動物を使った研究では、がん細胞の増殖を支える代謝経路をブロックし、治療後の再発の鍵を握るとされる「がん幹細胞」や、がんに味方してしまう免疫細胞のはたらきにも影響することが示されています。

メベンダゾールも同じく駆虫薬ですが、こちらは細胞分裂に不可欠な「微小管」を壊すという、既存の抗がん剤とよく似た仕組みを持ちます。脳への移行性があること、抗がん剤や放射線の効きを高める可能性が示されていることも特徴です。

いずれも数十年にわたって世界中で使われてきた薬で、安全性のデータが豊富に蓄積していること。そして、高濃度ビタミンC点滴とはまったく違う角度からがんにアプローチすること。ここに、併用を考える意味があります。

一方で、これらの薬のがんへの使用は保険適用外であり、肝機能や血液検査での定期的なチェック、飲み合わせの確認が欠かせません。個人輸入や自己判断での服用は、おすすめできません。

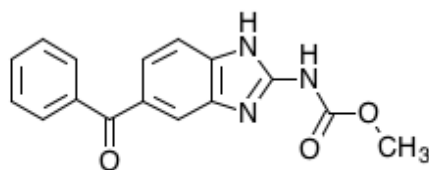
裏を返せば、医師の管理のもとであれば、比較的に取り入れやすい選択肢だということでもあります。「点滴だけで終わらせたくない」「できることは一通り知っておきたい」——そうお考えの方は、次回の点滴の際にぜひお声がけください。今の治療内容や体調と照らし合わせながら、一緒に考えさせていただきます。



イベルメクチン



イベルメクチン
&
メベンダゾール
27,500 円 (30 日分)



メベンダゾール